

教員になって初めて赴任した奈良市立済美小学校で、3学期を迎えた1月の昼過ぎ、校舎が全焼するという事件に遭遇した。この年、私は青森県で開催される冬季国民体育大会スキー大会の県選手代表に選ばれ、出場が決定していた。しかし、このような状況の中で大会出場はできないので、県スキー連盟に棄権を申し出た。ところが、開催された大会には、選手変更をせずに私の名前で出場したA選手が、競技の途中でスキーが折れ、片足だけで完走したことが「折れたスキーで完走」

## 都知事の著作に学ぶ

と、美談となつて夕刊全国版で報道された。しかし、「掲載された写真の顔が本人と違う」との指摘があつて、翌日の新聞には、「替え玉事件」として大きく取り上げられ、大騒動になった。記事を読

事件のあつた年の夏、全国勤労者陸上競技大会の県予選会、出場した三段跳びに、全国大会でも優勝が狙える好記録が出た。しかし、全国大会への出場が認められなかった。理由は替え玉事件にか

会会長から声をかけられ、大阪ロイヤルホテルで開かれた講演会に出席した。講師は会長の親しい東京都知事、東電太郎氏であつた。会長が私を誘ってくれたのは、前回の一件があつて励ましのためだ

## 部活動指導のヒントに

んだ仲間知人から、慰めやら励ましなどを頂いて、事件の拡がりに大変困惑した。そしてこの事件はその後さらに拡がり、私の陸上競技活動にまで、影響を及ぼすところとなつた。

かわつたということ。私はむしろ被害者で納得がいかないので関係者に不服を訴えたが、全く相手にしてもらえず、全国大会出場は諦めざるを得なかった。それから何カ月かたつて、奈良陸上競技協

つたのか。講演後はホテルの喫茶で、コーヒを講師と一緒に頂いた。社会人わずか1年に満たない、若輩者にとつて東京都知事は雲の上の存在、思いがけない出来事は、今でも鮮明に残っているが、

講演で聞いた内容や、喫茶で会話したことは全く記憶にはない。しかし、その時頂いた一冊の本「スポーツと共に」(旺文社発行、初版昭和28年10月5日)は、知事が還暦を迎えられた記念に発刊されたものである。内容は私の誕生以前に綴られたスポーツ談義など、90年を経た今読んでもそれほど違和感を持た

ないスポーツ観であり、むしろ参考になるところが極めて多い。1964年、奈良市立一条高校に転勤し、担当した陸上競技部員のトレーニングウェアの腕に「F」のワッペンを付けることを提案、部員たちと話し合つてその意味を共有して使うことになった。伝統は今も続いていると聞いている。

一条高校には設立の精神として、フロンティアの「F」があり、スポーツマンが目指す「スポーツマンシップ」の三つの意義、すなわち「フェアプレー・フレンドシップ・フテンクスプリット」のFを重ねたものである。これも知事が書かれた「スポーツは人づくり、スポーツマンシップが原点」がヒントであつた。



東電太郎氏から贈られた本「スポーツと共に」を手にする著者＝奈良市の自宅

当時はスポーツについて学ぶ書物が少なかったの

掲載予定